



SHOKEI



高校総体／バスケットボール部

尚綱新時代へのスタート 「中学校・高等学校校舎棟完成」

輝き
幼稚園年長組
教職員エッセイ 梅の花
経営管理部 財務課／阿部豪幸

卒業生コラム はばたき
2007年 尚綱学院大学／人間心理学科 卒業
置賜広域行政事務組合(山形県) 総務課企画財政係
／鈴木充さん
情報掲示板 学校行事報告、同窓会コーナー

vol.
503
2015年(平成27年)
9月10日発行



SHOKEI

2015
503

尚綱新時代へのスタート「中学校・高等学校校舎棟完成」

建設整備事業募金ご協力をお願い

■中学校・高等学校校舎 ■大学礼拝堂

募金状況報告(目標額2億円)
¥80,474,642.(目標額の40.3%) ※8月20日現在

寄付の方法 募金の期間 2015年12月31日まで

建設事業募金インターネット申込受付開始のご案内
(コンビニでお支払いいただけます。)

①尚綱学院HPの建設事業募金
(申し込みフォーム)をクリック

②必要項目をご入力ください。

③ご自宅に払込伝票が届きます。
(土日祝日を除き発送致しますので、お時間がかかる場合がございます。)

④最寄りのコンビニレジでお支払いをお願いします。

スマートフォン
の方は右の
QRコードを読
み取り下さい。

指定の振込(払込)用紙を準備しております。必要な事項をご記入の上、
下記金融機関から手続きをお願いします。(振込手数料は無料です)

口座名 学校法人 尚綱学院募金事務局
●ゆうちょ銀行(郵便局) **口座番号** 02220-8-43433
●七十七銀行長町支店 **口座番号** 普通預金 5744105

お問合せ (学)尚綱学院 法人事務局募金事務局
TEL 022-381-3471 ※月～金 9時～17時
Email ▶bokin@shokei.ac.jp URL ▶http://ap.shokei.jp/

尚綱学院大学生涯学習センター 2015年度 後期講座のご案内

2015年後期講座も様々な講座を企画しておりますので、受講希望
の方は、申込書をFAXまたは郵送・Eメールでお送りください。

①ご希望の講座 ②氏名(フリガナ)③住所・郵便番号 ④電話番号

リカレント講座(全4回)の案内

一般の方対象のオープンカレッジ、市民大学講座のほか、幼稚園教
諭・保育士の皆さんの学び直しの場として、子ども学科教員や専門家
による現場で役立つ講座を開講します。

① 9/19(土)「現場で役立つ身体を使った遊びいろいろ」
前田 有秀(本学子ども学科教員)

② 11/ 1(日)「絵に見る子どもの成長～絵の発達について～」
相馬 亮(本学子ども学科教員)

③ 11/29(日)「子どもが大好きな紙芝居の世界」
伊藤 俊子(紙芝居文化の会 運営委員)

④ 2/20(土)「保育現場で役立つパソコン講座」

●時 間:全て14:00～ ●受講料:無料
●場 所:尚綱学院大学音楽リズム室 他

尚綱学院大学生涯学習センター 電話:022-381-1490
Fax:022-381-1491 Eメール:extension@shokei.ac.jp

尚綱学院
後援会会員に
加入の
お願い

尚綱学院後援会は、「尚綱誌の発行」と「学院への援助」を
行っている支援団体です。学院を応援してくださる
方ならどなたでもご加入いただけますので、
ご協力の程お願い申し上げます。

学院への援助と共に
尚綱誌が届きます。
(年6冊 5回発送)

5月 7月 9月 12月 2月

※9月のみ通常号・入募集特集号同時発行

年会費 2,000円/年 **納入方法** 郵便振込口座NO **02230-3-2116**

数年分をまとめてのお申し込みも、お待ちしております。 手数料無料の振込用紙がございますのでご利用ください。

※尚綱誌購読中の方で、氏名・住所等変更された場合は、ご連絡ください。
※記事を読んでの感想・懐かしい思い出のお写真、楽しい情報等もお待ちしております。
お手紙・おハガキ・TEL・FAX・E-mailにてご連絡ください。

**尚綱学院後援会
事務局**

〒981-1295 宮城県名取市ゆりが丘4-10-1
TEL022-381-3342 FAX022-381-3467
U R L: http://ap.shokei.jp/dk/
E-mail: koenkai@shokei.ac.jp

2015年 尚綱志祭

Peace & Piece

～大空へがける丘ハーモニー～

10/17(土)
開会式 10:00～10:30
出展公開 10:30～16:00
中夜祭 16:00～18:00

10/18(日)
出展公開 10:00～14:30
後夜祭 16:00～18:00
花 火 18:30～19:00

学生や地域の皆様、ご来場されるお客様1人1人がPiece(欠片)と
なって大きな物が完成していくように今年は、様々な出店や野外ス
テージ企画、学生による研究発表や子ども向け企画など、皆様との
ハーモニーが奏でられるように、実行委員一同
心よりお待ちしております。

**LIVE パンダライオン
in 尚綱**

10/18(日)
12:30 開場
13:00 開演

お問い合わせ 尚志祭実行委員会
TEL022-381-3518 Eメール shoshisai@yahoo.co.jp

おくやみ

佐竹 喜久子様(68歳)
(元事務職員)
7月17日逝去されました

渡邊 憲治様(79歳)
(大学・環境構想学科教員 渡邊千恵子様ご岳父)
8月24日逝去されました

齊藤 乙女様(97歳)
(大学・環境構想学科教員 齊藤敬様ご祖母)
7月20日逝去されました

編集委員 徒然日記

うだるような暑さだった8月も終わ
り、朝夕が少しずつ過ごしやすくなっ
てきました。この時期になると過ぎ去る夏
が恋しくもありながらも、秋が待ち遠し
くなります。この季節の境目と同じよう
に、尚綱学院では8月に旧校舎にお別
れを告げ、新校舎での学校生活が始
まりました。卒業生にとってはどこか寂
しく、在校生にとっては待ちに待った新
たな一歩です。連綿と続く尚綱学院の
歴史の中で継承されてきた有形・無
形の「尚綱文化」が、また一つの区切
りを迎え、次の時代と共に変化を迎え
ています。(Y・Y)

2013年度冬より3年計画で建設を進めてきた新校舎が完成しました。
新しい校舎を3回シリーズで、ご案内します。

尚綱新時代へのスタート!

中学校・高等学校 校舎棟完成

中学校・高等学校 新校舎完成



中学校・高等学校 校長 山村 悦夫

校舎建設工事の内、新校舎棟が完成し、夏休みに引越えを行いました。真新しい、素敵な校舎での授業が始まったところです。

新しい校舎には、随所に様々な工夫が凝らされています。統一された新鮮な色彩感覚、生徒が伸び伸び自己表現できるエリア、多様な目的に使えるオープンスペース等々、「授業さえ」といった従来の学校のイメージからは大きく飛躍した開放的な造りになっています。これからの時代にふさわしく、尚綱学院ではPBL（課題解決型学習）に力を入れています。その調査のための場となる図書館や、自律的に学べる環境、発表のための設備等、かなり充実しています。自ら能動的に学ぶ力を身につけた多くの尚綱学院生が巣立ってくれることを確信しています。

百聞は一見に如かず、です。是非一度ご覧ください。澁橋方向からのお勧めです。

なお、この後も旧校舎解体、新体育館建設等と続き、2016年12月竣工予定です。



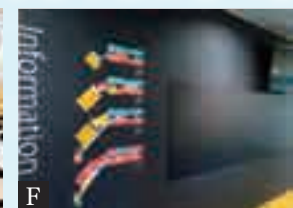
E

E

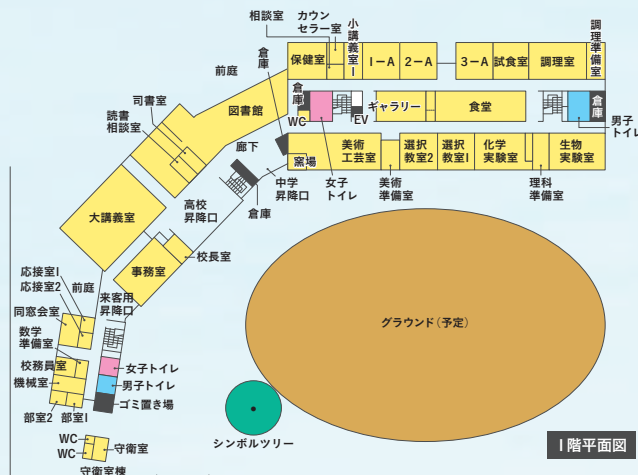
昇降口の正面は図書室(E)で、廊下側壁には電光掲示板(F)が設置されており、その時点での太陽光発電量や主な学事情報が目飛び込んでくる。図書室の中に入れば、窓側カウンター席からは南側の青葉山地区の大自然が目前に迫り、集中して学習ができる場所となっている。(E)閲覧テーブルは可動式で日常の利用はもちろん授業でも工夫して使うことができる。また図書室の東側には、約240名収容の大講義室(G)があり、学年単位の催しやポジティブフォルダを使ったイベントなど、多様に利用できる。正面の壁には大きな十字架も設置されているので、礼拝などにも対応できる。



G



F



1階平面図

教室棟の1階は、中央部の開放空間帯が続き、手前からPBLでの研究成果発表などもできるギャラリー(H)、カフェ方式の食堂(I)、自販機コーナーなどが並んでいる。気がつきにくいかもしれないが、食堂のガラスを見るとあたかも校章が舞っているかのような錯覚が味わえる。南側の教室群は、保健室、中学校3クラス、調理および試食室(J・K)が並んでいる。保健室は怪我の対応などに利用するシャワー室も配備、隣にはカウンセラー室と相談室もある。調理台にはIHヒーター、試食室は衛生上の理由で調理室から入れない構造としている。北側は特別教室群で、大型の電気釜を移設したほか技術家庭の授業でも対応できるようにした美術工芸室(L)、選択教室が2室、最新設備の化学室や生物室(M)がある。なお、全室とも暗幕以外のカーテンは、薄い青色のドレープで、カーテンを閉めた時の外からの眺めはなかなかおしゃれである。

次号(12月)は、礼拝堂のご案内致します。



L



M



J



K



H



I

尚綱学院の中高生が中島町の正門に立つと、右手の壁に、校名と校章が真つ先に目に入る。校章は1902明治35年に制定されたもので、このデザインに決まったのは、梅の花が「尚」の字に似ているとの理由で決ったようである。

カーブしている校舎とカッタの木に沿って、奥に進んでいくと、入り口が3箇所見える。一番手前が、来客用(A)で、その内側壁には定礎版(B)が設置されている。刻まれた文字は、広瀬校地の礼拝堂の定礎版そのままに「この土台はキリストである」で、伝統を感じることができる。その西側には高校生用の大きな昇降口(C)があり、さらにその隣には中学生と教職員用の昇降口が配置されている。

このあたりの入り口付近のアスファルト(D)は黄色系でひととき目立つようにデザインされている。またこのあたりから約1年半後に完成予定のグラウンドに出ることができる。校舎脇の通路とグラウンドを仕切るのが、芝生の丘であり緑が綺麗である。

中学校・高等学校 事務長 菊池 雅人

新校舎1階の風景



D



C



B



A

置賜広域行政事務組合(山形県) 総務課企画財政係

鈴木 充さん

2007年 尚絅学院大学／人間心理学科 卒業

〔卒業生コラム〕

habataki

はばたき

vol.38

将来の自分へ繋がる大事な大学生活。
いろいろ活動し、たくさんの人に出会って
「よく学び、よく遊ぶ」を実行!

この職業を選択した理由と、仕事内容、 今後のホープをお聞かせください。

私が尚絅学院大学人間心理学科に入学した理由は、弱っている人や困っている人を助けることのできる人間になりたいと思ったからです。しかし振り返ると、その時は自分がどのような職業に就き、どんな仕事をしていきたいか、漠然としか考えていなかったように思います。

大学に入学し、勉強、サークル、アルバイトやボランティア活動等、様々な繋がりの中でたくさんの人に出会い、徐々に自分は何がしたいのか見えてきました。

就職活動を始める頃には、地元に戻り地域の活性化と人の役に立つ仕事に就くと決め、公務員を目指すことにしました。公務員試験の勉強は、大学で学んだものとは違うため専門学校などで更に学びながら受験し苦労しましたが、自分が目標とした職業に就職することができました。

現在は、総務課企画財政係に配属され、予算編成、人財育成事業、婚活推進事業などを担当しています。予算編成は、組織の将来計画を担うことから、気を張って作業していますが、人財育成事業や婚活推進事業は、いろいろな人との出会いや地域活性化に直接繋がるため、楽しんで仕事をしています。また、仕事以外でも地元消防団、祭りの実行委員や体育推進員等の活動を行っており、自分が目標としていることを実現するため、今後も邁進していきたいと思います。

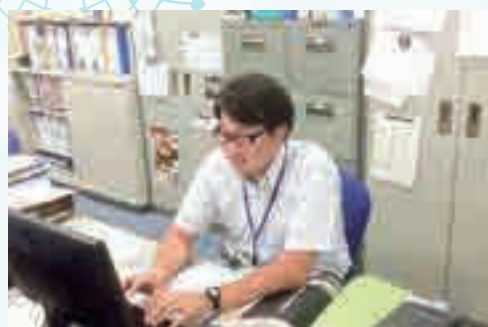
尚絅時代の思い出と後輩へアドバイスを!

大学時代の思い出は、勉強、遊び、サークル活動等全てに本気で取り組んだことです。そのことにより様々な経験を得ることができました。社会人となり、家族もいるとなれば、そのような経験を積むことは難しくなるので、後輩のみなさん、学生生活では「よく遊び、よく学ぶ」ことが一番大切です。今しかや

れないことを大事に、いろんなことを学んでください。知識を手に入れ経験を積むことで、知恵になり自分の蓄えとなります。私も皆さんと共にその蓄えを増やすため、「よく遊び、よく学ぶ」を実行していきます。



担当している婚活事業プロジェクトメンバーと



工作中



趣味の軟式野球で県大会出場

2003年4月	尚絅学院大学・人間心理学科	入学
2007年3月	同	卒業
2009年4月	置賜広域行政事務組合	採用
	現在に至る	

輝き

Vol.3

幼稚園年長組

年長組のばら組・ゆり組は、ともに男児12人女児12人ずつのクラスです。



お泊り会にて全員集合!



ばら組



ゆり組

ばら組は、元気いっぱいパワーと個性があふれるクラスです。生き物が大好きで、ダンゴムシ、カミキリムシ、カナヘビ等幼稚園のお山や裏庭で見つけて飼育をしていました。また、友だち思いの優しい子どもたちで、困っている友だちがいると必ず助けてくれます。

ゆり組は、とても仲良しの子どもたち、ムードメーカーが多く毎日驚きや笑いの絶えない楽しいクラスです。年長としての自覚が芽生え、園全体を引っ張ってくれています。体を動かす事が大好きで、園庭や山の斜面も駆け回ります。

これからも仲間と共に充実した園生活を送って、思い出をいっぱい作ってほしいと思っています。

ばら組担任 清野 正恵

ゆり組担任 花海やよい

「星の海」

「宇宙って、どこまで続いているの?」9歳の息子からそんな唐突な質問を受けた母は、哑然としていた。「...宇宙ってね、どこまでも続いているんだよ。終わりなんて考えても分からないくらい広いの。」「え〜いつか宇宙の端っこに行ってみたいな!」「ふふ、そうだね行けるといいね!」

宇宙は広い。そんな当たり前に見えることが、幼少時の私には新鮮であった。

いつしか私は『星の海』に思いを馳せるようになっていた。宇宙に終わりがあるとしたら、そこから先は次の宇宙につながっているのだろうか? その宇宙には同じように地球は存在し、「阿部 豪幸」はいるのだろうか? いや、見た目は同じで

も名前は異なるかもしれない...。そもそもあつちには日本なんてあるのか? そんなことまで考える始末だ。

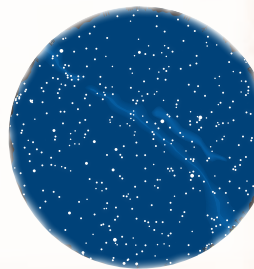
そうこうしているうちに、ふと我に返る。直前までくよくよしていた自分はどこへやら。悩みや怒り、心の陰りが吹き飛んでいることに気付く。

果てしなく続く星の海に広漠たる想いを巡らせるだけで何故だか心が安らぐ。自分の存在がえらくちっぽけに思えるのだ。いつかあちらの私にも、宇宙の端っこがあることを伝えるときが来ることを夢見ている、そんな今日この頃である。

教職員エッセイ vol.38

梅の花

経営管理部 財務課
あべ ひでゆき
阿部 豪幸



情報 掲示板

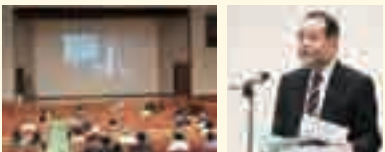
各学校からの
お知らせ

夏の暑さに負けることなく
学院行事に一生懸命、皆で
力を合わせて頑張りました

学院

8月24日(月)

中高旧校舎お別れ式



新校舎建設により9月から解体がはじまる中高旧校舎のお別れ式が行われました。半世紀を超える歴史とともにたくさん卒業生を送り出してきた現在の広瀬キャンパスは、惜しまれながらもその役目を終えることとなります。8月からの新校舎引越しのに伴い、7月23日には在校生がお世話になった学び舎との別れを告げました。そして、8月2日には教職員や卒業生が駆けつけ、感謝の気持ちとともに讃美歌を礼拝堂に響かせました。閉式後には、旧校舎の在りし日の姿を記録したアーカイブ映像を上映し、それぞれの思い出とともに最後のひとときを過ごしました。

(経営管理部 総務課 阿部 祐子)

中学校

6月8日(月)・11日(木)

サイエンス・パートナーシップ・プログラム



私達2年生は、サイエンス・パートナーシップ・プログラムを通して科学について学んできました。4日間の事前学習を行い、班に分かれてテーマを決めそれぞれについて調べました。最終日は、東北大学医学部で実験をさせて頂きました。研究所では、大腸菌のコロナーの観察をし、自分たちで菌を採取しプレパラートを作りそれを観察しました。身の回りの物にこんなに菌がいることなど想像したこともなかったのでも驚きました。今回、憧れの東北大学に行くことができて本当にうれしかったです。分からないことを最後まで追求することの素晴らしさを学び、この経験を今後に生かしていきたいと思っています。(2年A組 小林 里瑳)

幼稚園

7月8日(水)

クッキング



初めて年中組合同でクッキング。メニューは子どもたちと相談して、サンドイッチに決めました。味は、チョコバナナ味とポテトサラダ味の2種類にしました。ポテトサラダ味の具材の一つであるきゅうりは子どもたちが大切に育て収穫したものです。当日は朝から今日クッキングだよね〜とはりきっていた子どもたち。ゆでたじゃが芋をつぶしたり、バナナにチョコをからめたり、友達と協力しながら調理をしました。

(幼稚園教員 田中館 真実)

7月10日(金)

すいか割り



真夏を感じさせるような、暑い日となった7月10日。園庭に全園児が集まり、年長児が描いたすいかの絵の旗をあげ、すいか割りが始まりしました。みんなで「えい、えい、お〜!」と掛け声をあげて、気合充分! 大きなすいかに大興奮の子どもたちは、友だちからの大きな声援を頼りにしてすいかを叩くと、少しずつヒビが入り、さらに声援にも熱が入ります。中から真つ赤な実が見え、最後は真つ二つにパカッ! 青空の下で食べるすいかは格別、夏休み前の特別な思い出となりました。

(幼稚園教員 澤口 美咲)

7月15日(水)・16日(木)

お泊り会



7月15、16日の2日間、年長組は幼稚園でお泊り会を行いました。内容は子どもたちが自分たちで計画をします。「水遊びがしたい!」「夕飯は自分たちで作りたい!」「沢山のやりたい事を出し、毎日集まって話し合いました。計画が決まると楽しみな半面不安もありましたが、仲間の支えがあり当

日は充実した時間を過ごすことができました。帰り際、子どもたちの表情はやり遂げた達成感に満ち溢れていました。園でのお泊まりは初の試みでしたが、大学の方、園外の方など沢山の方々に支えられた事で子どもたちが楽しく、無事過ごせた事に心より感謝致します。

(幼稚園教員 花海 やよい)

中学校・高等学校

6月27日(土)・7月4日(土)

中高オープンスクール



6月27日(土)に高等学校のオープンスクールを開催しました。今年は夏休み中に校舎の引越しが行われるため、例年より1ヶ月半早い実施でした。雨の中ではありましたが、330組の中学生と保護者にお集まりいただき、コースの特長の説明ののち授業体験をしていただきました。

また翌週の7月4日(土)には中学校のオープンスクールを開催、38組の来場でした。礼拝体験やPBLの発表など小学生には初めて経験するものばかりでしたが、理科の授業も含めて満足いただけました。

今年度の募集行事では生徒の活躍紹介に加え、コース改編のコンセプトや、探究型学習を後押しする新校舎の魅力もお伝えしていきたいと考えております。

(入試広報部主任 熊谷 千鶴)

7月18日(土) 尚綱祭



今回の中総体は、私たち3年生にとつて最後の大会でした。自分にとっては3度目だったのでいつもより勝ち進めるように頑張りました。1回戦は対三条中で2-0で勝つことができたが、2回戦は対二中で0-2で負けてしまいました。この2つの試合は2年間練習してきたことをすべて出し切れたので悔いのないものになったと思います。ほかの選手も、勝つた人、負けてしまった人がありますが、いい経験になったと思います。

次はこの経験を中学校のまとめ

中総体



今回の中総体は、私たち3年生にとつて最後の大会でした。自分にとっては3度目だったのでいつもより勝ち進めるように頑張りました。1回戦は対三条中で2-0で勝つことができたが、2回戦は対二中で0-2で負けてしまいました。この2つの試合は2年間練習してきたことをすべて出し切れたので悔いのないものになったと思います。ほかの選手も、勝つた人、負けてしまった人がありますが、いい経験になったと思います。

陸上部



バスケットボール部(女子)



と高校課程進級の勉強に向けていきたいと思っています。応援ありがとうございました。(3A 山口 竜広)

バドミントン部(男子)



バドミントン部(女子)



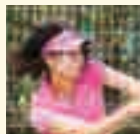
3年 鈴木美月
女子 シングルス
市大会ベスト8
県大会出場ベスト32

バドミントン部



高等学校

高総体



私たちは硬式テニス部は6月上旬に行われた高校総体団体戦で泉高校に初戦で負けてしまいました。部の中では、泉高校に勝つためコーチも含みさまざまな作戦を練り、試合に臨んだこともあり、負けてしまった時

バスケットボール部



ベスト4

バレーボール部



ベスト4

の敗北感はとても大きかったです。校舎建て替えのため、テニスコートが無い中でも部活全体で効率のよいメニューを考え積極的に練習に取り組んできたことは、きっと試合の中で役に立っていると思います。グラウンドが無い状態があと1年ほど続きますが、応援してください。いろいろな方々へ感謝の気持ちを忘れず頑張ってください。

(運動部長 岩本 英美)

バドミントン部



ベスト4

弓道部女子団体



第3位

7月10日(金)に平和祈願礼拝が守られました。説教者として「平和を祈る七夕」市民の集いから川端英子さん(日本基督教団仙台北教会教会員)をお招きし、「あなたたちは真理を知り、真理はあなたたちを自由にする」(ヨハネによる福音書8章31節)という御言葉から、お話をいただきました。川端さんが経験された1945年7月10日の仙台空襲お話を通して戦争の惨禍を知り、平和を求める道を学ぶ機会となりました。

(宗教部副主任 赤井 慧)

7月10日(金) 平和祈願礼拝



7月18日(土) 尚綱祭



今年度の尚綱祭は、旧校舎で行われる最後の尚綱祭でした。長い尚綱祭の歴史の一つとして多くの人の心に刻まれるような尚綱祭にしたいと思い「新しいことに挑戦する」というテーマを掲げ準備をしました。長年生徒からの要望が多かった「力キ氷」を解禁させ、中夜祭を開催するなどの試みを行いました。全てが初めてのことであったので不安でしたが多くの人の協力を得て無事成功させることがで

きました。委員長という立場に立ち、心の中で思っていることを実行に移すことの難しさを実感することができました。大変でしたが達成できた時の喜びは計り知れないものでした。最後になりましたが藤岡先生、鈴木雄貴先生、平澤先生をはじめ多くの先生方に協力していただきありがとうございました。

(文化祭実行委員長 田口 瑞生)

7月20日(月)

合唱部・定期演奏会



去る7月20日、中学校・高等学校合唱部第57回定期演奏会を尚綱学院大学礼拝堂にて行いました。本年度は校舎移転のため、様々な行事が前倒しとなっており、直前の17・18日には尚綱祭がありました。そのため、並行して準備を進めなくてはならず、非常にタイトなスケジュールでしたが、生徒達は本公演を成功させようと休日も返上し練習に励んできました。その甲斐あってか、お客様と共に感動的な時間を共有することができました。日頃から多大なるご支援をいただいております同窓会の皆様にご場をお借りして厚くお礼申し上げます。

(合唱部顧問 西川 慶)

大学

ラーニングステーションOPENと講座の開催



2014年度後半から全教職員協働のもとで、「@尚綱ラーニングコモンズ」という学内学習空間を創造する作業を続けております。2015年4月から事務組織に教育研究支援課ができ、4号館の2階に設置された関係で、その横のほぼ一教室分のスペースをラーニングステーション(通称ラーステ)としました。このコンセプトは、自由に学生が集える空間、学習できる空間、自由に飲み物が飲める空間、互いの意見もブレゼンできる空間、ネットに接続したパソコンが自由に使用できる空間、スマホも資料収集メディアとしては重要であるので、自由に充電できる空間などです。ここでは6月のオープン以来、様々な講座が工夫されて開講されています。例えば「ワークシヨップ 学内にこんな空間が欲しい」などです。図書館の職員を交えて楽しい議論ができたようです。

(副学長 水田 恵三)

6月16日(火)

子ども学科・公開授業「国際子ども支援活動」詩人・大越桂さんとコラボしよう



6月16日、13歳で初めて言葉によるコミュニケーションを獲得した大越桂さんを迎えて、公開授業がありました。担当者で非常勤講師の桜井ひろ子先生、桂さんのお母さまである紀子さんによるお話のあと、桂さんご自身からも筆談によるお話と、学生との楽しい対談もありました。4年次の科目に1年生も大勢参加交流してくれて、「みんなの目で心を寄せ合う」という間の90分でした。

「自信のない自分も、まあ、いいんじゃない」といえる時点で、ちよつと進化したと思う。それが他人の弱さも受け入れられる強さになる。私の姿を見て、同じ女子だ！と思ってくれた交流の中に、一緒に今を生きている実感を体験することができました。ありがとう。(当日のブログ「積乱雲」より)なんて素敵な感性と心の持ち主なのでしょう。新しい出会いに感謝します。

(子ども学科教員 東 義也)

大越桂さんの紹介

仙台市生まれの26歳。819グラムの未熟児で産声をあげ、重度脳性まひ、未熟児網膜症による弱視など重度重複障害児として幼少を過ごし、13歳の時、気管切開により声を失ったことをきっかけに、筆談を覚え「言葉のコミュニケーション」を始めました。04年ブログ「積乱雲」開設。

発行書籍

「花の冠」(2012 朝日新聞出版)
「海の石」(2012 光文社)
「きもちのこえ」19歳こぼれ私」(2008 毎日新聞社)



6月19日(金)
表現文化学科・
「地域文化事業論」
ゲスト講義



6月19日、増田西公民館の尾形理恵さんに「増田西公民館での取り組み―地域力向上プロジェクトからキラキラパルク増田西へ―」というお話をいただきました。

名取市生涯学習課の提案で増田西公民館が行っている「地域力向上プロジェクト」とその成果として生まれたチーム「キラキラパルク増田西」がどのように生まれ、活動してきたのかが紹介されました。

この講義から受講生は、地域と文化のあり方について知るとともに、人を集めてプロジェクトをすることの楽しさや難しさ、プロジェクト遂行に必要な人間関係の築き方など多くのことを学んだことと思います。

(表現文化学科教員 稲澤 努)

7月11日(土)

総合科学研究所講演会



去る2015年7月11日(土)、午後1時30分より本学114講義室において、尚絅学院大学総合人間科学研究所主催(尚絅総研)の講演会が開催されました。

合田学長より、講演会開催にあたり挨拶がありました。尚絅総研の今回のテーマは、「『放射能』退かない津波のなかで生きる子どもたち―福島県の保育園・幼稚園に私たち大学ができること」と題して、岩倉幼稚園園長を中心とした7名の講演者のリレートークにより、それぞれの専門分野の視点から参加者に語りかけ、会場が一体感を持った講演会となりました。

た。講演は、福島県の保育園・幼稚園がこの放射線対応に苦慮しながらも、最善の保育環境をつくりだそうとする教育現場の熱意が伝わる内容でした。

参加者の中に、健康栄養学科卒業生(福島在住)が、大学としてこのような研究を学問として捉え発表していることに感動している。現在、関係している行政に前向きに関わり、卒業生であることに誇りを持ちながら進んで行きたいとの感想が寄せられました。26名の参加者ではありましたが、有意義な講演会となりました。

(教育研究支援課課長 小島 広二)

7月20日(月)

海浜リゾート
散策ツアー



8月10日(月)・11日(火)

高校生のためのエコツアー



環境構想学科と河北新報社の「今できることプロジェクト」による、「高校生のためのエコツアー」は、高校生に「環境」と「震災復興」の視点から、東北の「これから」を考えてもらう企画です。今年度は高校生10名、スタッフとして本学科学生6名が参加し、津波被害を受けた企業と行政の取り組みや、環境保全に積極的な地域の取り組みを2日間かけて訪問しました。



環境構想学科と河北新報社の「今できることプロジェクト」による、「高校生のためのエコツアー」は、高校生に「環境」と「震災復興」の視点から、東北の「これから」を考えてもらう企画です。今年度は高校生10名、スタッフとして本学科学生6名が参加し、津波被害を受けた企業と行政の取り組みや、環境保全に積極的な地域の取り組みを2日間かけて訪問しました。

今回のツアーでは、震災からの復興や環境との共生について、様々な地域の取り組みを見学することができ、見学後のディスカッションでは、多くの参加者から残された課題や今後の発展について意見が出されました。このツアーが少しでも、東北の「これから」につながればと思います。

また川崎町の広葉樹の森では、皆伐による森林の維持管理の手法

を見学しました。森林伐採というと、自然破壊につながると考えている人も多いかもしれませんが、しかし、高齢化が進んだ木を順に伐採し、切った後の根株から新しい芽が萌芽することによって、若い強い森を順次作っていくことが可能になります。長い年月をかけて、人の手を加えながら森林を守っていくとする姿勢や、何より、地域の方が生き生きと楽しんで作業をする様に、多くの参加者が驚いていました。

今回のツアーでは、震災からの復興や環境との共生について、様々な地域の取り組みを見学することができ、見学後のディスカッションでは、多くの参加者から残された課題や今後の発展について意見が出されました。このツアーが少しでも、東北の「これから」につながればと思います。

022・264・5830

7月25日(土)

オープンキャンパス・イン・サマー



7月25日、本学名取キャンパスにおきまして、オープンキャンパス・イン・サマーを開催いたしました。例年より1週間早い開催で、心配しておりました降雨や猛暑もなく、高校生574名、保護者231名の合計805名と多くの方々に来ていただきました。今年は、本学院生の声・姿を聴き・知ることができると好評を得ております学生サポートスタッフの3つの新規企画が加わり、また、全体のプログラムを午前と午後で同じ構成とし

たことで、いつ来てもオープンキャンパスを楽しみ、本学を知っていただくよい機会となったのではないかと思います。

これもひとえに、ご協力を賜りました多くの学生および同窓生、教職員、後援会の皆様のおかげであり、この場をお借りして深く感謝申し上げますとともに、今後とも募集活動にご協力賜ります様よろしくお願い申し上げます。

(入募入試部長 赤坂 和昭)

綱

同窓会コーナー

◆昭和36年高校卒業同期会開催



3月27日(金)に私たちは母校に54年ぶりに集まりました。遠くは関西から関東、東北合わせて58名の参加で大賑わいの同期会でした。かつて私たちが学んだ校舎が間もなく取り壊される事を知り、お別れをしたいということになり同期会が開催されました。実行委員の一人として、いろいろ心配しながら当日を迎えましたが、その日は快晴、春日和の暖かい日で礼拝堂前のロビーにセッティングした受付前は再会の喜びにあふれました。

第一部は懐かしい礼拝堂での礼拝、久しぶりに讃美歌を歌い、元宗教主任小林先生によるメッセージを聞いて高校生時代にタイムスリップ。若い時に受けた教えがこれまで私たちを導いてくれたことを実感した瞬間でもありました。第二部は食堂での昼食会と懇親会、一部の静かな雰囲気から解放されて話し声の渦ではじけました。想い出を語っては笑い、再会の興奮はなかなか止みませんでした。皆で懐メロを歌い最後に校歌を歌って会は閉じたのでした。別れがたく、再会を祈りながら。

インフォメーション

◆クリスマス礼拝のご案内

日時 11月28日(土)
13時開始

●場所 中学・高等学校新校舎礼拝堂
●会費 500円

☆公共交通機関をご利用下さい。
皆様の参加をお待ちしております。

(連絡先)

◆八三会・墓前礼拝



猛暑の続く8月3日月多くの同窓生・ご来賓の方々にご出席いただき、墓前礼拝が行われました。

教師の深田寛教師より「派遣された者」と題して講話をいただき、ブゼル先生は「教会」と「女子教育」の接点に立っていたという話は大変興味深く、表は質素に、内には錦をという「錦穿ちて綱尚う」の校歌の歌詞の意味を今一度教えていただきました。ブゼル先生的女子教育への思いとその背景にあった教会の支えに思いを馳せました。(役員 熊谷 史子)